



# 自分のペースで伸びていく

学校長 村越 新

「マイペース」というと、良くない印象を受ける人もいるかもしれませんが。しかし本来、子供は、自分の進め方・自分の速さ（早さ）でやりたいものなのです。学習に関して言えば、マイペースこそが一番身につくと思います。

しかし我々大人は時として、マイペースで行動する子の姿を見ると、イライラして「早く!」「もっと急いで!」と強めに言うてしまうことが、多々あります。「早く」は、子どもの自己肯定感を下げる言葉。あまり言われすぎると、人格形成にも影響を及ぼすことがあるようです。

「早く」は、自己肯定感を下げるだけでなく、やる気を奪い、主体性の成長を妨げます。以下のような切り替えをして、なるべく「早く」「急いで」を言わないようにしてみませんか。

## 「早く起きなさい!」

→ 就寝時刻を守る、朝の楽しみを作る、早く起きの良さを知る

## 「早く準備して!」

→ 準備完了の時刻を事前に決める、時刻を可視化する（時計などで）

## 「早く着替えて!」

→ 着替えの丁寧さをほめる、着替えに要する時間の目標を示す

## 「早く食べて!」

→ おかずを小さく切り分るなどのちょっとした工夫

## 「早く選んで!」

→ 考える時間を保証する、自己選択を優先する

## 「早く宿題しなさい!」

→ 「机に向かおう」など一つの行動を促す、いつから始めるか聞く

\*参考：子ども学びラボ「教育を考える」

『早くの代わりに使いたい魔法の言葉』



学年末、進級を控えてついつい「早く!」「急いで!」が増えてしまいがちですが、我々大人も少し子供のペースを尊重してあげましょう。



# 東日本大震災を忘れない



3月11日、東日本大震災から13年がたちました。弔意を表し、本日は半旗を掲揚し、下校前には全校で黙祷を捧げました。

今から6年前、私が現地に行って、語り部の方から聞いた話を紹介します。

## ～海から300m離れたところにあった戸倉小学校の奇跡～

震災当時の校長は埼玉県出身の人だった。震災対策への思いは熱く、研究熱心だった。地域の方とも何度となく避難について語り合っていた。しかし、チリ地震の時のような津波が来た場合の避難場所については、決定できぬままでいた。

震災2日前、3月9日、大きな地震があった。この日は校長の指示で屋上へ避難した。結果津波は来なかった。職員室では一人の女性教諭が全教職員を前に訴えた。「本当に津波が来た場合には、屋上では助からない」。真剣に聴いた職員は、翌日近くの裏山の民家へ避難訓練を実施した。訴えた教諭は南三陸の出身者であった。

震災当日、校長は避難場所を屋上ではなく、裏山の民家に決めた。前日の避難訓練通りに民家へ避難。さらに近くの神社へと避難場所を移した。振り返って海辺を見ると学校はほとんど海で埋まっていた。海はその小さな神社へも迫る勢いである。これ以上逃げる場所はない。その日はその場所で一晩を過ごすことになる。

泣き叫ぶ小さい子をなだめる高学年。寒さに負けて眠ってしまいそうな子もいる。高学年の子が、皆が眠らないように歌い始める。歌ったのは、毎日練習していた卒業式で歌う曲。何とか無事に次の日を迎える。全員が助かった。

学校を含め周辺の民家は流されたが、近くの小中学校で授業は再開される。翌年度の5月からである。

中学校に入学した当時の6年生は、卒業式のことには忘れていたが、8月、中学校の体育館で実施することになる。もちろん当時の卒業生たちは喜んだ。そして、この遅れて実施される卒業式にはサプライズが待っていた。歌手の川島あいが登場する。震災の夜、6年生が必死に歌い続けたのは、彼女の歌「旅立ちの日」であった。この話を耳にした彼女が、自ら参加を申し出た。もちろん、卒業式は感動的なものであった。

あの日、もし学校の屋上に避難していたら、おそらくほとんどの児童の命は失われていただろう。あの日の避難について、大事なことを我々に教えてくれる。

- 1 対話を大切にする（立場にこだわらずに、よりよい方法について話し合う）
- 2 検討を継続する（「これが最高だ」などと終わらせてはいけない）
- 3 地域の意見を大事にする（その土地のことは地域の人が一番知っている）